

令和3年度 第2回伊東市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和4年3月17日（木）15:00～16:30
場 所 伊東市役所 8階中大会議室
出席者 委員8名、参与2名、事務局6名

開会

1 議題

(1) 子ども・子育て支援事業計画について

ア 令和4年度幼稚園・保育園入園状況について（資料①）

イ 令和3年度地域子ども・子育て支援事業の実施状況について（資料②）

(2) 伊東市公立幼稚園・保育園の再編及び認定こども園整備に向けた基本方針（案）について（資料③）

※ 事務局より別冊資料を説明

会長

前回の会議では公立幼稚園、保育園が抱える課題と認定こども園の特色についての説明があり、少子化や施設の老朽化の課題解消のため、公立園の認定こども園化を進めていくのはどうかという事務局からの提案があったと思います。それに対しては資料に記載の通り、委員の皆様からは概ね本市の状況を踏まえると認定こども園への移行時期に来ているのでは、というご意見を頂いたほか、メリット・デメリットの捉え方、また認定こども園化を進めるに当たっての留意点など、様々な見地からのご意見を頂いたと思います。このご意見を基に市の基本方針として考えを明確にし、今後はこの方針の下で具体的な実行計画の作成を目指していくというものです。

あくまでも公立園の整備方針になりますが、今後の伊東市における教育保育の提供体制に大きく関わる事柄となりますので、第3期伊東市子ども子育て支援事業計画の改訂に向けた事前協議ということで、各団体からお越しの皆様のご意見をお伺いしながら、その事前協議を進め、支援事業計画に反映させたいと考えておりますので、ご意見を頂戴したいと思います。

まず、保育園の父母の会代表の委員から頂きたいと思いますが、前回は認定こども園化した他の施設の課題を事例としてご紹介いただきました。また伊東市で想定される園の規模感に合った施設の視察をしたらどうかというご提案をいただき、それについて先ほど事務局が報告をさせていただきました。そちらも踏まえながらご意見等ありましたらお願いいたします。

委員

認定こども園への移行は国がかなり前から進めている政策だと思っておりますが、全国的に見てもスムーズに移行が進んでいないというあたり、何か問題があるからではないかというところが一番にあります。先ほど事務局から視察の報告をしていただきましたが、

次回はぜひ現場で働かれる先生方を連れて行っていただきたいと思いました。前回、こども園化のデメリットをいくつか挙げさせていただいたのですが、そういった細かい部分のすり合わせがとても大切などころではないかと思っていますので、そこをどう解消していくかに重きを置いて取り組んでいただきたいと思います。

それから、こども園の ICT 化を進めていくという説明がありましたが、私の周りで聞こえた意見としては、核家族の育児はどうしてもタブレットやテレビに頼らざるを得ない場面があるので、ICT 化というよりも、保育園に望むのはどろんこになって遊んでほしい、家庭でしてあげられない部分を求めているといった声がありました。また、伊東市の財政再建のために認定こども園化が進められるといったこともないようにはしていただきたいです。少子化が進んでいますので仕方がない部分はありますが、当たり前と言われている少子化をどうにか食い止める、出生率を上げる策を、部署の垣根を越えて考えていただくことも必要だと感じています。

それと、昨日は大きな地震がありました。私は生まれが兵庫県で 10 歳の頃に阪神大震災を経験しています。今、耐震基準を満たしてない宇佐美保育園にお子さんを預けていらっしゃる方のお気持ちを考えると、認定こども園化も大事なのですが、とにかく安全なところに子どもを預けられるように、いつ大きな地震が来るかわからないので早急に解決していただきたいと強く思いました。以上です。

会長 いつも現場重視のご意見は本当にありがたいと思います。安全安心な保育環境を第一に整えるというのは、教育委員会としての使命だと思いますので、こういったことも含めて計画に反映できるように、事務局に伝えたいと思います。

委員 私どもの沼津聖マリア幼稚園は、幼稚園と保育園が合併したのではなく、元々幼稚園だったところがこども園になりました。ですから、さほどやりにくいことはなかったと思いますが、一番の違いは幼稚園と保育園では開所時間が違うということです。幼稚園の先生は 8 時間勤務し、その後、残業をする傾向にあります。保育園のようなシフト勤務だと、8 時間の勤務終了後は職員が交代していくため、残業できる時間が取りづらいという点が大きな違いです。沼津聖マリア幼稚園ですと、こども園になった途端に開園時間が 11 時間になりましたので、その 11 時間をカバーする教職員を揃えなければならない。そのシフト勤務を組んでいくというのが大変だったのではないかなと思います。

こども園化に当たっては、園児と保護者、そして教職員この三つが関係しますが、おそらく園児と保護者はこども園化で良くなる面が多くありますから、それほど抵抗はないのだらうと思います。一番難しいのはやはり教職員で、静岡市の例で言えば平成 27 年度に市内の公立幼稚園と公立保育園がすべてこども園に移行しましたが、幼稚園の先生と保育園の保育士が一つの器で勤務することになって、それぞれ文化が違いますのでお互いの考えが合わないですとか、給与体系の違い等があり、相当苦労したと

いう話は聞いています。

私どものように私立幼稚園で、平日も夕方も、夏も冬も預かり保育を実施しているところはすでに基盤がありますので、こども園化されたとしてもそれほど驚くようなことはないと思います。ただ先ほど言いましたように 11 時間はきっちり開所していなければいけませんので、そういったところが少し大変かと思えます。以上です。

会長

どうもありがとうございました。先ほど委員からありましたが、財政再建のためにこども園化をするというよりはむしろ保育の質を上げたいですか、伊東市の保育・教育の文化を継承したいという気持ちもございます。そうはいつでも経営目線を持つのは私どもの事務局側の人間としては当然必要なことで、市民の皆さんから頂いた税金で運営しておりますので、そういったことも含めて今後も研究していきたいと思えます。

委員

自分の子どもが通っている吉田幼稚園は預かり保育の実施がありませんので、この 1 年間、あればいいのにと僕自身はすごく思っていましたし、吉田幼稚園にいる他の保護者もそのように思っているかと思えます。正直、預かり保育とこども園の違いがよく分かっていないのですけれど、利用できる保育サービスが増え、預けられる時間が延長されることはとても良いことだと思います。

また、こども園化は職員の方々の理解がなければ進んでいかないと思えます。預かり保育に関しては、今は実施園にばらつきがあるので、こども園になる際には保育サービスにそういったばらつきが出ないように実施していただけたらよいのではないかと思います。以上です。

会長

幼稚園にもパートで働いている保護者がいますので、預かり保育の重要性についてご意見を頂きました。また、現状、実施している幼稚園と実施していない幼稚園がありますが、認定こども園化により、どの園でもサービスが均等になることを望むご意見をいただきました。

委員

認定こども園となり、この 3 月で 1 年を経過します。園児、保護者、教職員全てに ICT を導入したことのメリットはとても大きかったと思えます。子供たちへ ICT 教育を進めるということはもちろんありましたが、それ以上に事務処理が早く行われることによって子供たちに対応する時間が増えたり、保護者と確実に連絡を取ることができたことがとても大きかったです。事例として、ちょっと口元を怪我した子どもさんの状況を電話で伝えるだけではなく、すぐに写真でその保護者の方だけに見てもらうことができ、これは病院に連れて行った方がいいレベルなのかどうかを確認していただけたという例がありました。それから痙攣が起きた時にも同様の対応をとることができ、そういった点ではとても良かったと思えます。

こども園は本当に大変な計画になると思えますが、どこに配置するのかはとても重

要な問題だと思います。地震や津波などの安全面を考慮した計画はもちろんのこと、教育委員会としてはもう何年も前から小学校の統廃合計画を考えておられますので、どこにどれだけの規模の物を作っていくのかという計画と説明は大切だと思います。私たちが施設と場所さえ整えば時間は上手に使っていけると考えて日々仕事をしてきました。どうしても先行投資が必要ですし、あとはやはりマンパワーが必要です。それから設計の専門知識も重要です。どういう保育を行っていきたいかが、どういう施設を建てるかに繋がるので、場所や時間の計画と同時に、目指す保育の具体化との両輪で進めていけるようにしたいのではないかと思います。以上です。

委員 令和4年度の園児募集を行って入園する園児が決定しましたけれども、やはり自分たちが思っている以上に少子化であるとか、幼稚園に入園する園児が少なくなっていることを今年度の数字を見て身をもって感じました。質の高い教育では「集団」は大事であると感じております。そして前回もお話ししましたが、幼稚園は幼児教育を大事にしております。こども園になるということで幼稚園と保育園が同じ教育を受けられる事に関しては、伊東市の子供を育てるという目指す子ども像を共通にしながら、いずれは小学校への滑らかな接続に繋がっていくのではないかと私自身は考えております。ただ、やはり幼稚園と保育園は今までやってきた中での違いがたくさんあると思いますので、基本方針にもありますようにお互いの理解を深めることが大事ではないかと思います。幼稚園、保育園それぞれの大事にしているところをお互い理解し合いながら園運営に反映できるようになっていければいいと思っています。以上です。

委員 伊東で生まれ育ち、伊東で子供を育てています。上の子が小学校で学童に、下の子は保育園に通っています。先ほどの意見にもありましたが、やはりどこに配置するかというのはとても気になる場所です。伊東の中でもそれぞれ地域の特性があって、海に近い、山に近いといった環境も子供に大きく影響を与えたいと思いますし、市街地では色々な働く人を間近に見ることができるとか、また散歩に行くところによっても様々な感じ方があると思いますので、認定こども園にとって設置される地域はとても重要なのかなという印象があります。

それから職員のことを考えますと、やはり専門職ですから、常に勉強をしていかなくてはいけないのだろうと思います。私も医療関係の専門職ですので、免許を取れば終わりではなく、色々なケースも出てきますので日々勉強が大切と思っているのですが、保育園の先生方は、こちらが心配になるくらい本当に頑張っている感じがして、日々の大変さを感じられます。そういった中で、例えばこども園に向けた研修や研究、あるいは意見交換ですとか色々な機会を設けて、職員の方が余裕を持って色々な勉強をしていただければと感じました。他の委員からの意見にありましたが、実際にこども園に先生方を連れて行くのはどうかという意見にも賛成です。

今どの業界でも新しい人が入っても長続きしないで辞めてしまうと聞きます。人と接する仕事はすごく大変だと思いますが、ぜひ長く続けて子供たちとずっと触れ合っていたいただければなと思いました。以上です。

会長

伊東市が認定こども園化を進めていく上で大切にしなければならないことを示唆してくださったと思います。やはり子育てニーズがあるところにそのサービスを受けられる受け皿を作る、その計画を作るための事業計画で、それについてのご意見を伺うのがこの会議というところで、園を作る場所、それから働く人間の気持ちの余裕なり心の通い合いといった、長く働ける職場になる、そして子供も安心して通える園になる。そういったことを今後の計画づくりの中に組み入れていきたいと思います。

副会長

保育園ですが前回の会議での提案を受けまして、こども園についての基本的な学習資料を職員に配布して読み合ったり、リモートで学習会をしたり、少しずつ取り組みを始めたところです。時間が取れない中で何点か話し合えたことがありますので報告したいと思います。

1点目が、先ほどからも出ていますが、視察を現場レベルとしてやっていきたいということです。保育園の園長会で何年か前に視察に行った報告は聞いていますが、その先輩方は皆さん退職されています。これから新しい施設を作っていくのであれば本当に良いものを作りたいという思いはみんな強く持っていますので、これからの考え支えていく若い職員も含めて視察に行き、勉強ができる機会を希望したいと思います。

2点目は、基本方針の「民間の力の活用」という点について、民間の保育園を否定する気持ちは全くないのですが、公立保育園が民間委託でかなり減っている経過がありますので、私たちとしては公立園としての運営を希望していきたいという意見です。保育園と幼稚園の両方ないと成り立たないという地域もあると思います。保育園の老朽化、特に耐震基準を満たさない園は、移転や建替えが必要だということは認識しておりますが、伊東市全体の子供たちが置かれる状況については今後幼稚園の職員や幼児教育課と話し合いを進めながら、望まれる形を考えていきたいと思います。

3点目に、こども園への移行の提案がありました。伊東市で求められるのは幼保連携型のこども園ではないかとの意見が出ています。幼稚園と保育園が統合する形でこども園に移行した他の園では、1号認定（幼稚園）の人数の変化をよく聞きます。開所時に5割程度いた1号認定の多くが2号（保育園）になっていくという場合もあると聞いていますので、少子化の現状を踏まえ、これからの本当のニーズはどこにあるのかを考えていきたいと思います。

先ほど幼稚園の園長先生もおっしゃっていましたが、職員も大事ですが、一番は移行したときに子供たちが混乱することなく安心して生活を送っていけることだと思います。今はまだ幼稚園の先生方と話し合ったり、すり合わせの機会が持っていないのですが、一緒に考えていければと思っております。以上です。

会長 現場の先生がこども園化のイメージをしっかりと持つことができ、現場の先生からの直接的なメリット・デメリット、解決策等を勉強するということの大切さを私も本日痛感いたしましたので、出来る限り若手職員も含めて視察に行ってもらえるような体制を事務局に作ってもらいたいと思います。

これで一通りご意見を頂きました。子ども・子育て事業計画の中に盛り込む事前協議の場でございますので、多様なご意見を伺いたいと思いますが追加でご意見があるようでしたら、後日でも構いませんので幼児教育課までお願いいたします。

会長 それではまとめたいと思います。本日の会議では、基本方針に掲げる方向性についての強い反対の意見はございませんでしたので、事務局においては今後関係機関と協議を進めながら、市の基本方針として策定をしていただきたいと思います。また整備する場所が大切だというご意見頂戴いたしました。場所や時期といった具体的な計画内容については今後実施計画として策定していくということも先ほど事務局からもありました。計画の策定段階からこの基本方針に掲げる留意事項を念頭に、現場の職員との調整であるとか、市民や関係者の皆様への広報に十分努めるようお願いいたします。

本会議と致しましては、公立の整備計画を踏まえた市全体の教育保育の提供体制を基に、令和7年度から第3期伊東市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた協議に入って参りますので委員の皆様には引き続きよろしくようお願いいたします。

それでは以上をもちまして次第の議題の(2)伊東市立幼稚園保育園の再編及び認定こども園整備に向けた基本方針（案）の協議を終わらせていただきます。

(3) その他

会長 続きまして次第の議題の(3)その他に移ります。事務局から何かありますか。

事務局 特にありません。

会長 委員の皆様からはありますか。

会長 それではでないようですので、これをもって本日の会議の進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局 皆様から貴重なご意見をいただくことができお礼を申し上げます。最後に事務連絡をさせていただきます。本年度の伊東市子ども・子育て会議は今回で終了となりますが、令和4年度も引き続きよろしくようお願いいたします。任期は3月18日、明日で満了となりますので、次年度になりましたら改めて委員選任をいたします。年度が変わり役員選考等もあるかと思いますが、各種団体におかれましては委員選考について宜しくお願いしたいと存じます。

それでは以上をもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会